



安全は最善の策ではない



4月20日囲碁界の歴史に新たな1ページが刻まれた。井山裕太プロが十段戦を制し、史上初の7冠を達成したのだ。過去の記録では5冠が最高という事を考えると、いかに素晴らしい記録かが分かる。では、なぜ彼はこれほど強い棋士になれたのか。本人の才能や努力、それももちろんあるが、優秀な指導者に恵まれた。彼を指導した師匠の石井邦生九段は具体的なことはあまり言わず、いつもある言葉を贈っていた。

それは『元気な碁を打ちなさい』というもの。囲碁の世界では子供の頃から何千・何万という大局をこなす。そのため、経験を積みば積むほど『この手を打つと形勢が悪くなるかもしれない』という恐怖心から思い切った手はなかなか打てなくなるという。

だが、子どもの頃から『元気な碁』を打ち続けた彼は今でも、他のプロ棋士たちがうなる手を打ち続けられる。トップ棋士同士の対戦では、それを積み重ねると形勢を逆転されてしまう。

これは、ビジネスでも同じ。

安全な道ばかり選んでいても、成功するとは限らないのだ。

井山プロはこう語る 『安全は最善の策ではない』

情報提供: 特別情報紙

国交省が新規事業 住宅産業の海外展開支援



国土交通省は、住宅産業の海外展開を支援する新規事業を始める。住宅の建設技術や設備・部品などに関する技術提供、個別の住宅プロジェクトへの技術提案など、**日本企業の取り組みに係る費用の2分の1を補助する予定。**想定される対象はハウスメーカーや工務店など。近く公募を開始する。

情報提供: 住宅新報

国交省／建設現場のWLB推進加速／優良企業認定を入札評価に活用



国土交通省は、直轄工事現場でのワークライフバランス(WLB=仕事と家庭の調和)推進を加速させる。WTO政府調達協定対象工事の入札で、女性活躍などWLBに関する法定の優良企業認定制度を活用した評価を16年度から一部工事で採用し、18年度の全面導入を目指す。

総合評価方式の技術者評価では原則として産休期間などを評価期間の対象から除外する。

週休2日モデル工事の倍増や**快適なトイレの設置原則化**などWLB推進の環境を整える。

昨年12月に閣議決定した第4次男女共同参画基本計画などを踏まえ、国交省は建設現場で男女共に働きやすい環境づくりをさらに推進する。

直轄工事の入札でWLB関連認定制度を活用した評価を導入する。

対象は一般土木や建築、港湾土木などの政府調達協定対象工事。

技術的能力などが一定水準に達した参加者を選抜して入札を行う段階的選抜方式の評価で、**女性活躍推進法に基づく認定制度「えるぼし」**や**次世代法の「くるみん」**、**若者雇用促進法の「ユースエース」**の認定企業を優遇する。加点方法などは今後詰める。

建設現場の仮設トイレを女性にも使いやすい「快適トイレ」に変える。標準仕様を今夏をめどに決め、原則すべての工事に導入。

レンタルが多い現場の仮設トイレが変わると、災害時に避難所に持ち込まれる仮設トイレも変わるなどの副次的効果も期待している。

14年度から試行している「**完全週休2日制工事**」も拡大。

15年度に56件実施したモデル工事を16年度に倍増させる。

情報提供: 建設工業新聞